

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100048		
法人名	株式会社 サンメディカル		
事業所名	グループホームサンパーク笑う門		
所在地	〒 020-0863 岩手県盛岡市1-15-27		
自己評価作成日	平成25年2月17日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390100048-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりのとの関わりを大切に感情豊かに「ありがとう、うれしい」と言葉を伝えてゆったり、笑って過ごせるように支援している。株式会社 サンメディカルは福祉用具レンタル、販売をしているので利用者様の生活状況に合わせて会社と相談して福祉用具、衛生用品の試供品を提供している。
・健康管理として口腔ケアに力を入れている。そして、食事を美味しく食べれるように献立をバランス良く多くの食品を使い、排便コントロール支援、水分摂取量を保つために器の工夫、好みの水分を準備して支援している。・町内行事に参加したり、当社の有料老人ホームと一緒に行事を楽しんだり、避難訓練も行っている。自然に恵まれた閑静な住宅地に立地しており季節の移り変わりを目で肌で感じ散歩を楽しみ、利用者様と職員と一緒にホーム内の装飾を飾ったり、庭先の手入れをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念である「みつめて、みとめて、ゆったりと笑って過ごしたい」を管理者を始め、全職員が常に意識して日々のケアに取り組んでいることが感じられた。「笑う」事、笑顔を大切にし、利用者家族や地域も理念に盛り込み、皆が明るく楽しく関わり合えるように身近な(理念)内容としている。利用者を認め、心から笑って頂けるよう取り組んでいる。職員同士も穏やかで、常に笑顔が絶えず、利用者と共に生活している。
母体が福祉用具レンタルと販売の法人ということで、利用者の状態に合わせて福祉用具が迅速に準備出来る事も、強みとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を市域、家族を意識した表現にしている。常に地域交流を意識して町内行事に参加、町内の産直、他近所での買い物をおこなっている	事業所名にも謳われているように、「笑う」事、笑顔を大切に、利用者家族や地域も理念に盛り込み、皆が明るく楽しく関わり合えるように身近な理念としている。利用者を認め、心から笑って頂けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板、会報をいただき行事(流しそうめん、資源回収、文化祭)に参加している。敬老会は地域の馴染みのボランティアさんと一緒にお祝いをし、お花、野菜等をいただいたり祭りの音頭上げ、子供みこしをホームにしながら楽しんでいる	運営推進会議の設置により、それが良いきっかけとなり、地域と親密になったと感じている。ホームの目の前が公園ということもあり、子供たちも気軽に寄ってくれたり、子育て中の母親も立ち寄り等、世代間交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパー、産直に利用者様と一緒に出掛けたり運営推進会議をホーム内で行い様子を見ていただいた、認知症ケアの報告を行なっている。入居の問い合わせ、相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度会を設けて町内会会長、民生委員、地域住民・家族代表、包括支援センター職員に活動報告、入居状況、病気が、研修、地域交流の報告をして助言を受けている。	定期開催しており、家族や地域、各種関係機関(包括等)の方々との意見交換の場となっている。この会議を行うことにより地域の方々との関係が、より身近となり、今後の活動においても、協力関係が構築されていく可能性が見える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	盛岡市には毎回運営推進会議録を提出。入居相談もしている。包括支援センターには毎回推進会議に出席していただき助言をいただいている。同じく入居に関しての相談をしている。	入居に関する諸相談を行っている他、顔を合わせる機会を大切に、報告や提出時にも出向くようにしている。今後も、顔の見える関係性を大切に、これまで以上の関わり合いや、多様な面での連携を図ることが出来るよう取り組んでいこうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社・ホームの理念にそって夕方の戸締り以外施錠することなくご本人の動きを止めない、受け入れる支援をしている。一人ひとりの位置確認の徹底に努力し、スピーチロックを意識して支援している。ホーム内学習会で確認共有してる	このことについてのアンケートをまとめ、それに基づき、職員間で話し合いが持たれている。またブロック会議に参加し、伝達研修し、更には理念に立ち戻って考えることで取り組みをしている。抑圧感の無い生活＝笑顔に繋がることを意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加して認知症の理解に努め、ご本人を受け入れる事を基本にしている。周辺症状の表れに注意し、ボランティア・実習生の受け入れを行い外部からホームの様子感想の情報にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して職員間で共有している。後見制度を利用している入居者様、入居申込者様がお応じた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族の様子をみながら目的、入院した場合、看取り、入居料金、面会等説明し家族とホームとの協力支援についても時間をかけて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見投書箱を置いている。面会、サービス計画説明時に家族の要望を確認している。また、アンケートを行い家族の思いを確認している。	家族の方々の思いを理解するように努めている。利用者や家族の思いの変化を注意深くみて、その時々にあった対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々カンファレンス及び連絡ノートを用いて利用者様、業務、勤務表等に関して意見交換をしている。業務日誌の記入者は何でも自由に記入して会社代表者に訴えたり、携帯で話ができるようにしている。	法人の幹部へ直接、電話出来るシステムが作られている。日常のケアの場面の中においては、各種帳票の様式の検討を行う中で、書き込みやすく、分かりやすいものに作り上げていったことがある。気付きは日誌に書き込んで共有し、その中で出た意見も大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度美点凝視を行いながら勉強会を行っている。働きやすい環境づくりとして勤務表の平等を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験年数、研修歴などを考慮して計画をたて職員が等しく研修を受けられるようにしている。現場では情報を共有して'なぜか'を考え見守り支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会例会、ブロック会の研修に交代で参加したり、交換研修を通して交流、ネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式から情報を得て見守りをし生活リズムの声かけをするがご本人を受け入れる事から始めている。変化に注意して支援している。家族に面会の回数を多くしていただき一緒に関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申込み、契約、面会時など話を傾聴することから始めている。家族の都合の良い時間に面会に来ていただいている。電話、メールで生活の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報、見学時の様子からどのような支援が必要かを見極めるが決め付けずに見守りをしてできない事と不安に思っている事等を職員間で共有して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	‘一緒に’ ‘ゆっくり’ ‘急がないでいいよ’ ‘ありがとう’ ‘うれしい’ の言葉を多く用いてコミュニケーションをとり支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に家族と一緒に支えたいと説明している。病院受診を家族にお願いしている。家族、ご本人の希望にそった外泊外出をしていただいている。また、季節に合った衣類布団類の交換をお願いして面会の機会している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得てお盆、お正月、お彼岸の墓参り、お祭り等の外泊外出をしていただいている。面会時間、電話使用を自由にしている。ご本人の自筆で年賀状書きの支援をしている。	これまでの利用者の方々との馴染みの関係継続について、家族にも働きかけている。このことのほか、病院への通院時に、自宅に寄り、仏壇を拜んで来たり、時には友人も訪問してくれることもある。利用してから生まれた馴染みの事柄も多く、行きたいところ等、思いに沿うように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に見守りをして変化に注意している。戸惑いに声掛けをしたり、寄り添っている。趣味、出来る事、興味のある事等を職員と一緒に関わる事を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した時に一緒になじみの入居者様と面会に行っている。入居後に家族の希望でデサービスを利用したり、ケアマネージャーと情報交換している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いま現れている事にとらわれることなく日々の変化に注意して‘どうしたいんだろう、何が起きているんだろう’と思いをくみとる努力をしている。また、表現できない思いのくみとりに関わりを持ちながら表情を観察して取り組んでいる	「今の私」ということに着目して、現在の思いを探るところから、その人を知り得るように考えて対応している。「私の言葉」(※個人毎のシートになっており、ファイルされている)や、日々の申し送りや、日常的な職員間の情報交換でお互いに共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー及び相談員からの情報と入居前に家族にセンター方式を記入していただき情報をえている。様子が変わった時には家族に確認して理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	‘いつもと違う’の気づきをするために生活リズムシート、個々の健康管理シート、センター方式を活用して全体像の把握に努めて日々モニタリングをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の情報交換で課題を確認し日々経過をモニタリングして柔軟に対応している。家族には面会、計画説明時に確認している。受診、往診時には主治医に生活の様子を報告して助言を得ている。	計画(立案)をし、ケアの実施、評価(3ヶ月毎)を行っているサイクルで行われている。実際の立案(評価含む)の部分については、本人・家族・かかりつけ医・包括・スタッフの意見を反映するようにし、本人本位に展開されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活リズムシートのモニタリング情報を職員間でアセスメント、共有して3ヵ月ごとの介護計画見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身体状況に合わせて会社の福祉用具を提供、介護保険更新手続き、受診、往診対応している。隣接デイサービスと一緒に行事を楽しんだり、避難訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩に出かけ東屋でご近所さんとおしゃべりしたり、歩いて日用品の買物、産直に果物を買いに出かけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してからもご本人、家族が希望する主治医に引き続き受診をお願いしている。主治医には個々の健康チェックシートを活用して身体状況を報告している。また、介護保険更新時には生活状況を報告している	利用者個々のかかりつけ医は、利用前の先生と変わらず、診て頂いている。定期受診は、通院ノートにより医療機関への情報提供等を行っている。家族による通院の他、事業所に対応するケースもある。家族への受診報告方法は様々であるが、行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をして1週間に1度健康相談をしている。それ以外にも電話で相談して助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時には必ず付き添い病院関係者に緊急連絡表を用いて情報提供している。入院した場合には頻りに面会に行き安心していただけるように声掛けをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時に医療連携体制および看取りに関する指針を説明して同意を得ている。ご本人には、日々の会話の中で看取りの確認をしている。それをサービス計画書に載せて家族と確認している。	重度化や終末期については本人を含め確認が行われている。「面倒みてもらってよかった」「おら、ごさ居たい」の言葉を大切に受け止め、家族との話し合いも段階を経て行い、研修等にも参加している。このことに伴う、スタッフの心のケアにも力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画で通報訓練(火災、緊急)、AEDの使い方、誤嚥の対応等を行っている。電話の側には個々の緊急時連絡表、連絡網を置いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立てて毎月訓練を行っている。年2回は隣接施設と合同訓練、消火器の使い方を行っている。セムの火災センサーが作動時特定の地域住民に連絡が行くことになっている。	地域の方にも協力を頂いて、年2回避難訓練が行われている他、月1回は夜間想定で、事業所だけの訓練も実施している。	災害時の対応について、不測の事態を考え、様々な形で訓練をしていくことは、非常に重要と思われる。今後は、加えて実際の暗闇の中での足場の確認や、経路の確認も含めて行っていくこと等に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意向を確認して支援している。排泄ケアに対して心配りをしている。戸口にのれんを下げています。名前、写真等の掲示は家族に確認している	羞恥心への配慮は徹底するようにしている。これまでの生活歴(職歴)を活かしての声掛けや、言葉遣いを行っている。(利用者が)自立するような支援を心がけている。実際のケアの現場での教育も常に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりとした空間作りを心がけて日常の会話、動作などで不安、精神状態をくみとり、傾聴して生活全般、排泄、睡眠等から体調を確認し環境を整えて支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年間行事、一日の生活リズムの予定はあるが利用者の希望、お天気まかせの生活をしている。起床・食事時間が個々の時間になっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった物を自分で選んで更衣できるように整理整頓、買い物支援を行っている。訪問理容でカット、顔そり、他個々の生活習慣に合わせて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも準備、盛り付け、片付けを一緒に行っている。嗜好調査をして好みの献立にすることもある。出来る事、好んでこなう事の見極めを行い役割が持てるように支援している	食事に関わる段取りについて、利用者の動きの動線等を考えて行って頂いている。茶碗拭きでも、わざわざ呼ぶことで来てもらうのではなく、立ち上がった時と併せて声掛けし、自然に手伝いをしてもらう等の工夫をしている。メニューとしては、手打ちうどん、行事食、敬老会メニュー、お弁当の配達も盛り込まれることがあるが、日常的には食べたいものを聞くなどして、食べたいものを楽しく食べることとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下、咀嚼状態を観察して食材の硬さ、大きさに注意している。そして、毎日食事・水分量を確認して摂取量を維持出来るように食品交換、好みの水分にして提供している。水分容器を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回口腔ケアの声掛けをして舌、口腔内乾燥に注意して支援している。毎日、口腔機能向上訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄を確認して習慣を受け入れて出来ない事の見極めをして支援している。トイレに名前を書いたパットを置いたり、トイレトペーパーを切っている	トイレについては、基本的に自立しており、夜間について心配な方はパット等を利用している。利用者個々の身体機能に応じて、トイレトペーパーを使いやすいように置きなおしたりし、個別ケアを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏、腹痛の訴え、出血、下着の汚染に注意して観察し個々の排便パターンを確認し、主治医と相談しながらコントロールをしている。予防に散歩、軽体操をしている。食事・水分摂取量の維持に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定はあるが個々の都合に合わせている。一番風呂が好き、今日はシャンプーしない、シャワーだけ、足だけ等の希望にこたえている	入浴を好まない方への対応など、工夫がなされている。「なぜ入りたくないのか」を個別的に考えて、それぞれの考えられる理由に沿って対応することで、スムーズに清潔保持に繋げている。気分を変えるために、バラの花びらを浮かべた「バラ風呂」も実施し好評を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制はしないが昼寝を促している。季節、気温にあった寝具類の調節支援をしている。個々の様子を観察しながら夏の寝苦しい時にはアイスノン、秋口からは湯たんぽを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書を全職員が確認している。個々の症状を確認して主治医、訪問看護師と相談して対応している。特に、血圧、便秘、風邪薬等に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族にセンター方式の記入していただき得意な事、趣味、出来る事等の確認をして役割が持てるようしている。体を動かすような事の声かけをしている。散歩が出来ない季節にはレクリエーションで楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中から何をしたいのか、何を言いたいのかを感じとる努力をしている。その時に求めている思いを支援している。入居前のケアマネージャーと一緒に支援する事もある	日常的な外出(散歩等)の他、計画的な行事としての外出支援を行っている。利用者と家族の希望に沿った外出支援のために、利用前からの「行きつけの場所」へも定期的に行けるための支援等をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理以外にご本人の希望があった時には家族の了解の上で自己管理としている。ヤクルトレディーが立ち寄るので支払の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を利用していただいて支援している。自ら家族あての年賀状に名前をかいていただき投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい色の張り紙、癒しのカレンダーを飾っている。季節ごとに模様替え、花植えを行い夏はすだれをかけたリグリーンカーテン作りに力を入れている。日々、室温、湿度、明るさに気配りをしてゆったりした空間作りを心がけている	共用空間においても、利用者の好きな場所を崩さないようにしている。ソファの配置等にも気を配っている。また、個人のソファを共有空間において、利用者のやすらぎのある生活に有効活用されている。利用者の作品(書道等)もきれいに掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の様子を感じとれる位置、テレビを楽しめる位置、会話を楽しめる位置、新聞、本をゆっくり読める位置、食事作りが見える位置等個々の居心地に気配りして家具、椅子の移動をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物、家具を持って来ていただきベット、家具の配置はご本人と家族と相談して決めていただいている。クローゼットの中を身長に合わせて取り出し安いように調整してる	利用者それぞれの居室作りが行われている。思い出の写真を多く飾っている方で、私たち評価調査員にもたくさんのお話をしてくださったことが印象的であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、トイレ、脱衣場、浴室、居間の畳のところに手すりを付けたり引き戸にしている。靴の履き替え時の転倒予防に玄関内に椅子を置いている		